

1. 教員・一般向け部門

加賀美雅弘・荒井正剛編 (2018)『東京学芸大学地理学会シリーズⅡ 第3巻 景観写真で読み解く地理』古今書院

【授賞理由】

本書は、景観写真（地理写真）は一般的な写真と異なり、その読み解きを通して地域・場所の地理的な理解を深化させると同時に、現代社会を複眼的にとらえ、複雑な構造を総合的に理解しようとする姿勢を育むことにつながるとし、地理教育における景観写真の有用性を具体的な事例に即して解説した書籍である。

本書の優れた点は、以下の三点にまとめることができる。第一は、景観写真に特化した書籍であるという点である。地理教材として写真資料が多用されているにも関わらず、これまで景観写真に特化した書籍はあまりみられなかった。第二に、景観写真をどのように読み解くのが具体的に示されている点である。ほぼ各頁にモノクロ写真またはカラー写真が掲載され、写真のどこに・何に注目をするべきか、丁寧に解説されている。さらに、単写真だけでなく組写真による構成や、地形図との併用もみられ、景観写真の読み解きを深めている。第三に、様々な地域や多様な地理的事象が事例として取り上げられている点である。事例地域は日本国内だけでなく東南アジアやヨーロッパなど世界各地に及び、その対象は自然地理学的分野から人文地理学的分野まで多岐にわたっている。

以上のような優れた点は、社会科・地理教員を目指す学生や現場教師に、地域学習や地誌学習の授業づくりに役立つ内容や視点を提供することになるであろう。また、本書は景観写真の単なる解説本ではなく、国内外の地域や地理的事象に対する地理学的なアプローチの方法を具体的に提示している点も高く評価できる。

ネット上の動画視聴や SNS での写真のやり取りが児童・生徒の日常になっている現在、景観写真から地域を読み解く力はますます重要になっている。本書の内容は、google map, google earth, 地理院地図などのデジタル地図に付随した空中写真やストリートビュー等の機能を活用した授業実践にも応用でき、さらにフォトランゲージを通じた他者理解やメディアリテラシーの育成にも寄与する可能性を秘めており、地理学、地理教育の普及・啓発に資する良書であると評価できる。

2. 児童・生徒向け部門

長谷川直子監修・高橋美江絵地図制作指導（2018）『発見しよう！つくってみようまちの地図 ① 学校のまわりの絵地図』河出書房新社

【授賞理由】

本書は、小学校3年の「まち探検」単元における地図の活用を、「絵地図」を用いて行うことを分かりやすく解説した児童向けの図書である。本書は、オールカラー印刷で、写真と図表、さらに地図の成り立ちから「絵地図」の制作、学習成果の発表会までの過程を丁寧に解説している。

本書の一番の特徴は、「まち探検」単元におけるフォールドワークのアウトプットを「絵地図」に限定していることにある。そのため、結果として「絵地図」を制作するために児童が自ら何をすべきかが明確になっている。この点は、「まち探検」単元の学習だけでなく、児童が夏休みの自由研究などに活用する上で大いに役立つだろう。また、本書では児童にとって興味・関心のある地図の作成方法や材料などが例示されており、児童の自ら取り組む意欲を喚起し、積極的な学習参加を促すことが期待できるであろう。

従来、小学校における学区探検後の地図学習は、地図作成の手順を楽しく、わかりやすく指導することが求められていたものの、必ずしも適切かつ十分に指導されてきたとは言えない。その意味で、地図作成の過程を具体的に示した本書は、児童だけでなく指導する教師にも大いに参考になるであろう。

改訂学習指導要領における小学校3年「まち探検」単元の学習では、その配当時間が大幅に縮小されることが懸念されている。その結果、本書の扱う地域観察・地域調査に基づいた「絵地図」作成という学習活動が、今まで以上に省略されることが危惧される。本書は、そのような状況を打開するために、具体的な地図指導の方略をわかりやすく提供した教師用図書としても評価できるであろう。